

# 和紙 だより

## 目次

越前和紙への提言 横谷賢一郎さん	1
取組紹介 (株)便利堂	2
レポート 産地ギャラリーの意義	3
レポート 紙の文化博物館リニューアル記念展	3
和紙ミニコーナー 情報欄	4

## 越前和紙への提言



■横谷 賢一郎(よこや けんいちろう)  
1968年、埼玉県生まれ。同志社大学文学部美学及び芸術学専攻卒。天津市歴史博物館学芸員。専門は京都/滋賀の江戸期絵画。博物館展示だけでなく、美術史とワインのワークショップや文化財ツアーなども企画し、日本や湖国の歴史・文化をユーモアあふれる独特の語り口で解説。大津絵研究の第一人者。

■横谷賢二郎さん  
(大津市歴史博物館学芸員)  
「現代的市场原理に則った庶民絵画」  
大津絵

## ●大津絵への注目

和紙を用いた日本の絵画として「浮世絵版画」は広く海外にも知られています。大津絵も、一昨年「大津絵」にハマったクリストフ・マルケさん(国立フランス極東学院学長)が本を出版し、東京で展覧会を開催したためか、再び注目されています。柳宗悦以来です。大津絵の歴史は浮世絵版画より古く、約四百年前に遡ります。山科に隣接した旧東海道の大谷・追分界隈で売られた地域限定の土産物絵画です。

戦前から欧州人にも注目され、仏人人類学者ルロワグーラン、スペイン人彫刻家エウダル・セラとその友人セルス・ゴミスなどが大津絵を収集し、展覧会に出品しています。浮世絵のコレクターとはひと味違い、前衛芸術家の耳目を集め、ジオアン・ミロ、パブロ・ピカソなども大津絵の大胆な表現を高く評価しました。日本では、柳が大津絵を大絶賛したので、江戸時代には消耗品にすぎなかつた大津絵が、二階級特進して古美術扱いされて美術市場に回り、コレクターが現われました。大津絵が凝った民芸表具で表装され始めたのも、この時期からです。

## ●大津絵の変遷

大津絵は、庶民が日常で礼拝する仏画から始まりました。仏画といつても絵仏師が描く寺に納めるような絵ではなく、一幅で、初七日から三十三回忌に至るまで、故人の冥福を祈る



「描表具を施した「十三仏」大津市歴史博物館蔵

「描表具を施した「十三仏」大津市歴史博物館蔵  
仏事に「ずつと使うことのできる」「十三仏」や日本の民間信仰「庚申講」の本尊で、寿命を縮める三戸(さんしゅ)を抑える「青面金剛」(しようめんこんごう)など、日常使いの仏画が中心でした。ちなみに「十三仏」をみると、厚手の柿渋油紙の型紙で、主要パーツを型摺り(合羽摺り)して構図を完成させ、その上に如來や菩薩の頭部を版木押しして、肉筆を加えるといった大津絵ならではの省エネ画法で描かれています。又、正式な表具の代わりに、半紙二枚継ぎの画面に必要最低限の表具パーツ(二文字、中廻し、風帯を定規引きし、「なーんちゃつて表具」(笑)の「描表具」(かきひょうぐ)に仕立て、お求めやすい値段で提供しました。

文化元年(1804)頃の大津絵の店  
上東海道五十三次(丸粋東海道)大津  
葛飾北斎  
仏画需要が一段落する元禄の辺りから、江戸では本格的な浮世絵師が登場し、美人画や役者絵を肉筆で描きますが、それを知つた大津絵師達も浮世絵風の絵を描くようになり、しかし、大



津絵はあくまでシンプル・速筆による表現に徹して客の目の前で実演販売していたので、浮世師並みの描写は不可能でした。又旅人もそれを大津絵に求めていなかつたのだと思います。そこで、風刺画を描き始め、大津絵独特のキャラクターが創出されました。鬼をはじめ、藤娘、動物、神仏、座頭、槍持奴、鷹匠などを、大胆に、ユーモラスに、可愛く、時には皮肉たっぷりに描いた図像に、生活上の教訓めいた言葉をつけ、大ブレイクすることになるわけです。



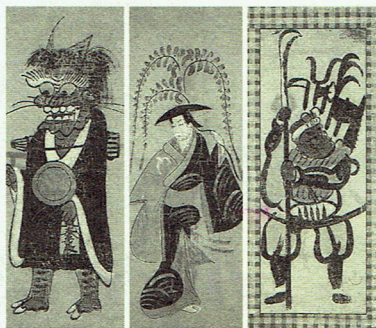
「猫と鼠」

江戸時代の思想家、石田梅岩が商人の心得や戒めを説いた「石門心学」という学問でも、大津絵は教科書キャラに使われていました。例えば、「猫と鼠」の絵には、「猫が酒盛りで、その身を滅ぼすとも知らず、ネズミが飲むや、ちゅうちゅう」などと、タダ酒(うまい話)ほど怖いものはない様を描き、現代でも通用する教訓にしています。つづらな大きな黒目の顔の造形を使えば売れるということに最初に気が付いたのも、多分大津絵の絵師達で、今の「ゆるキャラ」の元祖とも言えます。十八世紀前半の全盛期にはキャラクター数も百十種類くらいになり、上方名物として一大土産物となりました。



●得意のコストダウン策

コストダウンの工夫は他にもありました。ひとつは絵の具代の節約です。墨、丹(第一酸化鉄)、緑青(銅吹きから採る奈良緑青)、黄(イネ科の刈安を煮詰める)、紅柄(酸化第二鉄)、肌色(紅柄に胡粉を混ぜる)、鼠色(墨に胡粉を混ぜる)の限定七色を用い、「大津絵カラーリング」で認知を得ました。紙は、江戸中期まで半紙二枚継ぎ、江戸後期以降は半紙一枚が主流となります。反故紙を使っていたが、出版業の多かった京都、大阪に近い地域柄、漉き返しの紙も豊富に出たでしょう。昔から紙は漉き返して使うという文化があつてこそ、安価な紙の利用が可能で、京都郊外の交通の要衝である追分・大谷はそれが入しやすい場所ともいえます。鼠色の漉き返し紙に、胡粉もしくは砥の粉を混ぜて薄い黄土色の具引きを施し、その上に図柄を描きました。



大津絵の人気キャラ「鬼念仏」「藤娘」「槍持奴」  
大津市歴史博物館蔵

津絵の店は、明治時代の創業ですが、大津絵の伝統的描き方を継承していらっしやいます。

■(株)便利堂

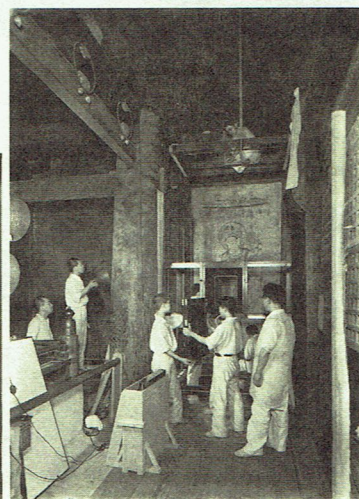
和紙に印刷する世界唯一の技術「コロタイプ

明治二〇年(一八八七)創業の「便利堂」は、コロタイプ印刷技術で、長年文化財保護に貢献してきた企業だ。元々フランスで生まれた技術だが、現在カラーコロタイプ技術を有するのは世界でも便利堂一社のみ。しかも、この印刷には手漉きの和紙が欠かせない。京都市中京区の本社で、西村寿美雄さん(社長室室長)にお話を伺う。



●歩み

十九世紀の写真用印画紙は、保存性が低く、退色変色する欠点があつた。その欠点を「焼き付ける」のではなく、「刷る」という技術に置き換え、考案されたのがコロタイプだ。原理はフランスで発見されたが、技術はドイツで確立、アメリカに渡り、日本には明治二〇年頃、小川一真によつてもたらされた。明治三十年代、日本の絵葉書ブームの先駆的役割を担った同社は、明治三八年、モノクロのコロタイプ工房を設立。昭和二年、今はなくなつた銅版カラー印刷技術「原色版」を導入。同時期に東京のプロカメラマン集団が便利堂に移籍し、写真部ができるのを機に、名実共にモノクロはコロタイプ、カラーは原色版で、「美術印刷の便利堂」が確立する。便利堂の名を広く知らしめたのは、何と云つても、昭和十年、文部省から委嘱され、のべ七日をかけた「法隆寺金堂壁画」の原寸大撮影である。技師長・佐藤浜次郎を中心に、壁面の前に組んだ枠に、特性の写真機が取付けら



法隆寺金堂壁画撮影の様子(右)と第6号壁コロタイプ複製(左)

れ、大小十二面の壁画の貴重な図像三六三枚が精巧に写し撮られた。翌年、文部省は保存性を考慮し、ガラス乾板に撮影された写真全てをコロタイプ印刷で複製することを依頼。昭和二四年、金堂は火災焼損するが、戦後の壁画再現事業には、この時のコロタイプ原板や原色図版の色が大いに参考にされた。法隆寺金堂の事業は、その後の日本の文化財保護行政にも多大な影響を与え、そのシンボルとも言うべき「法隆寺金堂壁画ガラス乾板」は、平成二七年、国の重要文化財指定を受けた。同社はその後、高松塚古墳壁画を始め、正倉院文書、宮内庁書陵部史料、伊藤若冲、尾形光琳等の美術品など、我が国至宝の複製事業に寄与し続けている。

●コロタイプの特徴

コロタイプの「コロ」とは、「膠」を表す、いわゆるゼラチンすることで、感光剤が含まれたゼラチン

を塗布したガラス版に画像を焼き付け、版を作り、「直刷り」する。

特徴は、一、撮影した写真をそのまま版に焼き付けるので、元の情報を正確に版に直結させることができる。二、オフセットやインクジェットのような網点を用いないので、詳細で滑らかな連続的階調を表現できる。三、通常の四色分解ではなく、原本の色を観察し、一色二版、時には十版以上の版を作り、全てその都度特色を作るので、色再現性に優れる。四、顔料の含有率が高いコロタイプ専用インキを使用するため、耐久性が極めて高い。五、印刷用紙は、越前の岩野平三郎製紙所の特注手漉き和紙を使用。保存性が高く、同社が手掛けた八十年前の複製も何の破損もない。和紙繊維の配合は、仕事の内容や予算によつて、その都度微妙に変えてもらう。これらコロタイプの利点は、職人達の熟練の技に支えられている。ゼラチン版への焼き付け加減、版を何版作るのかの判断、特色の作り方、など一朝一夕には修得することができない技術だ。使う道具も全て特注というから驚く。

コロタイプ(左)、オフセット(中)、インクジェット(右)の比較-30倍



本社工房の様子-特色を作る

●展覧会の成功と未来

昨年、同社は創業三〇周年を記念して、京都



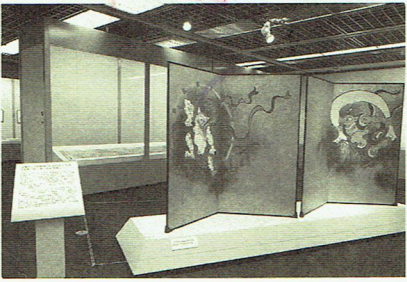
文化博物館で「至宝をうつす」文化財写真とコロタイプ複製の歩み」展を開催し、関連イベントも盛況だった。三二日間の会期中に二万人近い人が訪れ、一人あたりの滞在時間が長いのも特徴的だったという。

「文化財のデジタルアーカイブが話題で、メディアの永続性も問われる今日、作ったガラス乾板は写真原板でもあり、コロタイプ原板でもあるのです。原板さえあれば、すぐに複製可能なので、却って見直されています」と西村さんは語る。

近年、同社の活動は、本物をそのまま忠実にうつすという軸足は大切にしつつ、もう一歩クリエイティブな世界へと広がり始めた。そのひとつが、二〇一四年から運営している「HARBAN AWARD (ハリバン・アワード)」コロタイプ写真コンペティションだ。「HARBAN」とはコロタイプで使うガラス板「玻璃版(はりばん)」のこと。コロタイプで作品を作ってみる国内外の写真家やクリエイターに応募してもらい、最優秀賞者は二週間京都滞在をしながら受賞作を職人と共に作り上げる機会が与えられるというもの。元々ヨーロッパにあり、絶えてしまった技術が、日本の京都にあると言うのも魅力の

ようで、昨年は四〇〇人以上の応募があった。

又、二〇一六年には、コロタイプの学びの場の提供と次世代コロタイプ技術を考える「コロタイプ研究所」も始動し始めた。



「至宝をうつす」展の模様 (京都文化博物館)

■産地ギャラリーの意義  
近年、越前ではメーカー自らが設置する展示スペースが開設されている。今回その意義や可能性を探った。

●蔵を改装して大型和紙も空間展示

越前和紙の産地問屋(株)杉原商店は、今年一月二七日、同社敷地内の築百年の蔵を改装し、和紙のギャラリー「和紙屋」をオープンさせた。同社では近年、大型の装飾和紙、照明器具、内装材などのインテリア・建築関連需要が増え、国内外を問わず、様々な人が訪れる。又、自社開発商品だけでなく、越前の職人達との共同開発商品も増え、これらを一堂に見てもらおう場所の必要性を感じていた。広さ百㎡という、この辺りでも滅多に見られない立派な蔵のリノベーションは、福井出身で、東京で活躍する空間デザイナー、水谷壮市さんが手掛けた。



杉原商店 和紙ギャラリー  
毎月第四土曜日公開ポイント制 / 0778-42-0032

大型和紙を吊り下げた天井部には、照度、色温度、光の当て方の角度が変えられる仕掛けがあり、空間内での変化を見ることができ、和紙製品の他、和紙原料、様々な技法で制作された和紙サンプルなどもセンス良くディスプレイされている。「大型創作和紙を出荷する前に、仕上がりを具合を画像チェックしたい」という要望なども増えており、こういう場所があると柔軟に

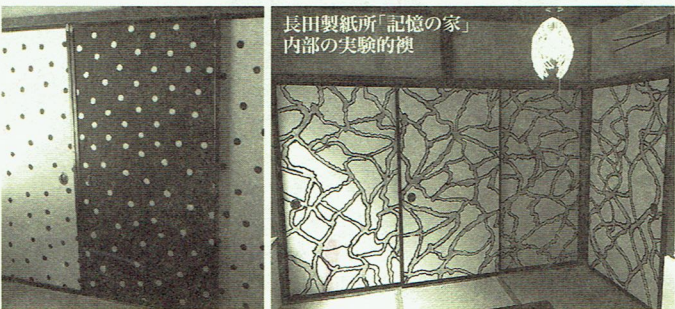
ることができる。水回り施設も設置したので、お酒でも飲みながら、職人とユーザーがゆつくり交流できる場にも使えます」と杉原さんは語る。

●自作和紙の実験の場「記憶の家」

長田製紙所は、従来製品の他に、ここ七、八年、社長の和也氏が作るアーティストイックな創作和紙でその名を知られるようになってきた。技法を駆使した限定商品の照明器具や正月飾り、クリスマスツリーも人気だ。長田さんは、五年前「記憶の家」と名付けた一軒丸ごとの展示家屋をオープンさせている。大滝地区の山側にある、昔紙漉き場を使用していた堅牢な作りの日本家屋を改装中に、展示場兼実験場にしようと思いついたという。「数年前に、色を控えめにし、形の面白さを際立たせたモノトーンの実験的紙作品(hono)を発表しました。

最初は、バッグにしたが、この紙を襖に仕立ててみたかった。あの家、意外に面白く、どうせなら公開していろんな人に見てもらいたいと考えました」と語る。

訪れた人は、趣ある和の空間にリズミカルに設置してあるポツポツな襖を見ると、



長田製紙所「記憶の家」内部の実験的襖

こんな事もできるのかと新鮮な発見があるようだ。照明器具「漉きあかり」や壁飾りなども、実際のしつらえ感がよく分かり、二階には、和紙のタビストリーやオブジェなど、アート作品も展示されている。

●小さな加工機で試作「プチ実験工房」

ノスタルジックな雰囲気の写真がプリントできる写真用紙「フォト和紙」、白地に白のキラ模様のあるお洒落な耳付き名刺用紙「枚漉きキラ刷り」などを制作している「信洋舎」は、県の補助を受けて、最近工房に小型活版印刷機を導入した。特徴のある小型の和紙を製造している個人経営の紙漉き工房だが、その一角にレトロな展示スペースを設けた。

小さなアイデアも加工屋さんに依頼していたのでは、経費もかかり、やりとりに時間がかかる。あるデザイナーに目を惹く鮮やかな繊維の入った自作の紙に、デザインした活版をはきみ、この活版印刷機で印刷した名刺を提案してみたら、とても気に入られた。「簡単な加工機械があれば、思いついたアイデアを気軽に形にすることができ、お客様の反応も即座に聞くことができる。気軽に試作した作品を展示し、ここでお客様や仲間と試作品を見ながら打ち合わせれば、又いろんなアイデアも湧くのでは」と西野さんは期待を寄せている。



信洋舎のプチ実験工房

産地ギャラリーの最大の魅力は、ただの売り

\*\*\*



場やショールームと違い、産地の「人と歴史」、作られる「もの」、その土地でしか感じることのできない独特の「空気感」を融合して見せられる事だ。そこには日々物作りを考えている職人の息吹がある。実験的作品を見せたり、産地の潜在能力をアピールしたり、しつらえた空間でこそ実感できる展示、刺激を与え合う人々との直接交流の場など、産地の活性化に繋がるヒントがありそうだ。

## ■紙の文化博物館リニョール記念展 特別展 和紙の真髄―越前奉書の世界― 第二弾開催

越前市「紙の文化博物館」リニョール記念展第二弾は、木版画用紙最高の紙として認知されてきた奉書と木版画の世界を取り上げた。二階展示室には、大正と昭和時代に制作された有名作家の木版画四四点を展示。

二月二十五日には、江戸版画の版元「アダチ版画研究所」の摺り師による摺り実演、三月三日には、同研究所、代表取締役会長の安達以年氏と越前奉書の人間国宝、岩野市兵衛氏との対談が行われた。温度湿度による伸び縮みが少なく、柔らかいが芯がしつかりしていて、紙の繊維の中に色を磨き込み、透明感ある発色を得ることのできる奉書の魅力や最近の原料不足に悩む奉書作りの苦労などが語られた。



安達以年氏と  
岩野市兵衛氏

## ■越前和紙展「技を極める」と「越前生漉鳥の子紙保存会」トーク

二月十二日と十七日、東京日本橋の「小津和紙」二階ギャラリーでは、越前に伝わる技法を用いた装飾紙が展示された。展示された技法は、打雲・飛雲の「漉き掛け」を始め、「漉き入れ」「落とし掛け」「漉き込み・漉き出し」「墨流し」「漉かし」「流し込み」「ひっかけ」などで、産地に蓄積された紙匠の創意工夫を見ることができた。又、二月十七日には、ユネスコ無形文化遺産登録を目指す「越前生漉鳥の子紙保存会」会長の柳瀬晴夫氏が、保存会の活動をスライドを交え紹介。雁皮紙の製造上の難しさ(漉き方、干し方)、栽培への挑戦などを説明した後、鳥の子紙の用途について参加者と意見を交換した。鳥の子紙は用途も限られ、保存会は苦勞して製造しても、使われなくては惜しいとの問題意識から、用途を探っている。会場では、五〇〇年保つプラチナプリン



保存会で漉いた  
生漉鳥の子紙を見せる柳瀬氏

トや二八五〇年代に発明され一世を風靡したセピア色の鶏卵紙(アルビューメン)プリント、ニューヨークの写真家などの話題が提供され、同会は今後写真を始め、アート分野の需要研究が必要だとの感触を掴んだ。



## 情報欄

### ●イベント情報

#### ■今立現代美術紙展 1300展

時:2018年4月22日(日)~5月13日(日)  
場所:いまだて芸術館(越前市粟田部町)

#### ■和紙青年部企画展×和紙展

時:2018年4月中旬~5月下旬  
場所:紙の文化博物館別館

#### ■荒井恵子の世界 墨と和紙 そのあわい

時:2018年4月28日(土)~5月31日(木)  
場所:卯立の芸芸館(越前市新在家町)

#### ■大瀧神社至宝展

時:2018年4月28日(木)~5月31日(木)  
場所:紙の文化博物館  
講演会・ギャラリートーク



#### ■岡太神社・大瀧神社巻千参百年大祭・御神忌

時:2018年5月2日(水)~5日(土)  
場所:岡太神社・大瀧神社(越前市大滝町)

#### ■神と紙のまつり(大掘り出し市)

時:2018年5月3日(木)~5日(土)  
場所:和紙の里通り(越前市新在家町)  
特設テント和紙販売、バザー、クラフト教室など

#### ■源氏物語展

時:2018年5月21日(月)~6月24日(日)  
場所:いまだて芸術館(越前市粟田部町)

#### ■山野草と和紙の奏でる日本の美

時:2018年6月8日(金)~6月10日(日)  
場所:卯立の芸芸館(越前市新在家町)

#### ■長田製紙製品展

時:2018年6月8日(金)~7月29日(日)  
場所:紙の文化博物館別館

#### ■横山大観と越前和紙

時:2018年6月13日(水)~7月16日(月)まで  
場所:紙の文化博物館

#### ■越前和紙による私家本・孔版画展

時:2018年6月13日(水)~7月16日(月)  
場所:卯立の芸芸館(越前市新在家町)

#### ■第47回金沢ペーパーショー2018

時:2017年6月15日(金)~17日(日)  
場所:石川県産業展示館  
展示、体験あり

#### ■第10回越前和紙 七夕吹き流しコンテスト(公募)のお知らせ

応募期間:2017年4月1日(日)~6月17日(日)  
当日消印有効  
詳細:事務局(0778-42-1363)又は「越前和紙の里ホームページ」まで

#### 編集後記

巻頭で紹介した、毎年恒例の大津市歴史博物館収蔵「大津絵」蔵出し公開は、ゴールデンウィークをはさんで行われます。今年は、4月17日(火)~5月20日(日)、普段はあまり展示できない、神像や仏画の初期大津絵から、簡略で明解なキャラクターの姿が楽しい中期や後期の大津絵まで、40点ほどが展示されます。(よ)